

“普段乗れない列車”に乗る合宿は、鉄道研究部員にとっての一大イベント

今年度から合宿も再開。列車を撮影したい人もいれば、乗って楽しみたい人もいる……様々な趣向をもつ鉄道好きが集まるサークルらしく、合宿では宿泊する場所、飲食をする場所だけ決め、それ以外は自由行動にしているといいます。前回は大阪と岡山、前々回は岡山、広島、山口へ遠征。参加した西岡さんは、「やっぱり、普段乗れない列車に乗れるのが嬉しいですね。前々回の合宿では山口県の宇部線という超がつくローカル線に乗ることができました。車窓から見える長閑

な田舎の景色もそうですが、東京では聞くことのできない独特の音を聴けたのも良かった」と思い出を振り返ります。

余談ですが、列車の音は積載するモーターの製造会社や、回路の種類によって異なる響きになるといいます。「音鉄」という言葉もあるように、鉄道好きにとって音は特別な要素。鉄道研究部では、メンバーが撮影した写真や映像とともに、録音した列車の走行音や駅の音を、グループチャットで共有して楽しんでいるそうです。

大好評だった“鉄道模型の運転体験”。これからも全力で人を楽しませたい



今年8月には、横浜市都筑区のセンター南駅前にあるショッピングモール『港北TOKYU S.C.』の一角に、“鉄道模型の運転体験”ができるブースを出展。部長の吉田さんは、このイベントの体験が最も思い出に残っているといいます。「整理券を配らないといけなほどの盛況で、一週間を通じてのべ1200人の方にご来場いただきました。親子で来られる方が多かったのですが、その中でも僕のことを師匠!と呼んでくれた子どももいて嬉しかったですね。部長になって初めてのイベントだったので、什器の手配や折衝など大変なことだらけでしたが、頑張ったかいがありました」。

内藤さんは“貸し切り列車の運行”を挙げ、「コロナ禍以前は、しばしば実現できていたそうです。部員数をもっと増やして、OBの方々とも連携し、ぜひ復活させたいですね」と目を輝かせます。また、具体策はこれからと前置きしつつ、「ライブツアーのように、遠征した先々で鉄道模型の展示を行えたら……」と、野望を口にします。活動に掛ける熱い想いは、脈々と受け継がれているようです。

これからも情熱的に、マニアックに、自身の“好き”を極め、熱いハートを胸に趣味・勉強にフルパワーで突き進むことでしよう。



大盛況となった港北TOKYU S.C.でのイベント。鉄道模型の運転に、子どもたちが目を輝かせました。

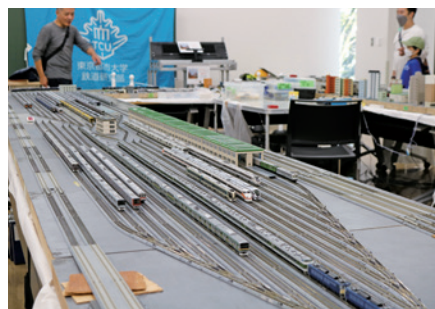


大好評だった“鉄道模型の運転体験”は、本学の世田谷祭や横浜祭でも継続して実施。併せて、列車のペーパークラフトや“きっぷ検定”クイズを製作・販売するなどの実施内容が評価され、2024年の横浜祭では学部長賞を、世田谷祭では学長賞を受賞する快挙を達成しました。なお、前述した鉄道シミュレータの製作には、学長賞受賞に伴って贈られた奨励金を活用しているそうです。2025年の横浜祭、世田谷祭では“学長賞のダブル受賞”を目指すといいます。

これから鉄道研究部でやってみたいことについて、2年生の



横浜祭の展示の様子。
Nゲージの鉄道模型を用いた運転体験では、ご当地「横浜線」の人气が高かったそうです。使われなくなった路線図や、車両プレートなどの展示も好評でした。



学長賞を受賞した世田谷祭の展示の様子。こちらが目玉は鉄道模型の運転体験。精巧なジオラマも注目を集めました。

